

ホクレン営農支援情報

(2019年10月号)

●「MILK LAND HOKKAIDO→TOKYO」でPRイベント「Made in 十勝」を開催 《帯広支所 営農支援室》

東京自由が丘にある北海道産牛乳・乳製品をPRする常設カフェ「MILKLAND HOKKAIDO→TOKYO」では8月に十勝産農畜産物のPRイベント「Made in 十勝」を開催。ホクレン帯広支所は、牛乳・乳製品需要拡大事業（道酪対）、JA ネットワーク十勝ブランド戦略推進協議会および十勝地区農協青年部と連携し、このイベントでさまざまな企画を行いました。

期間中は、「Made in 十勝」特設販売コーナーの設置や、十勝産農畜産物の期間限定メニューの提供などを行ったほか、PRイベントとして「疑似搾乳体験」「バター作り体験」

「酪農クイズ」などを実施。疑似搾乳体験では、子どものみならず若い女性が体験する姿も多く見られました（体験後に、SNSに写真などをアップする様子も）。盛り上がりを見せたのは「酪農クイズ」。道民にとっては常識問題である「白黒模様の牛の名前は？」「十勝ってどこ？」にも、大人

も含め多くの方が間違う結果となりました。

そのほか、バターをたっぷりかけたスイーツコーンや馬鈴しょの試食が好評で、首都圏の消費者へしっかりPRすることができました。



盛り上がった「酪農クイズ」



生クリームでバター作り



疑似搾乳体験は子どもに人気



試食に「うまい！やばい！」

●空知総合振興局の大人の現場体験&社会見学 《岩見沢支所 営農支援室》

岩見沢支所営農支援室では、空知総合振興局からの「生産現場は普段の業務で関連があるが、それ以外にも農産物生産に関する資材や農産物販売に関する知識の向上を図りたい」との要望に応え、岩見沢市内近郊にある王子コンテナ株式会社とホクレン肥料株式会社への「大人の現場体験&社会見学」を行いました。

王子コンテナでは、農産物段ボールに関する基礎知識や品質管理について説明を受けました。参加者からは消費税増税による出荷対応や災害に関する段ボール製品について質問があるなど、積極的に学ぶ様子が見られました。また、ホクレン肥料では製品工程やコスト低減に向けた取り組み、空知特有の土壌改善等について意見交換が行われました。



王子コンテナでの説明を聞く職員



ホクレン肥料の工場見学



BB 肥料の配合についての説明

●JA とまこまい広域「農業パート募集説明会」を開催 《苫小牧支所 営農支援室》

8月26日に苫小牧市沼ノ端交流センターにおいて、JA とまこまい広域主催による農業パート募集説明会が開催されました。当日は12名が参加し、事前応募1名を含む11名が登録しました。



来場者アンケートの結果では「開催場所が良かった」「説明会の内容が分かりやすかった」などの意見が多数寄せられました。9月に入り、

登録者のうち9名が、南瓜の収穫・箱詰め作業や馬鈴薯の選別作業などに従事しています。

●「おしま農業のお仕事フェア」を開催 《函館支所 営農支援室》

渡島管内では、農業分野における情報共有と課題解決を目的として、行政機関・普及センター・試験研究機関・農協・ホクレンをメンバーとする「渡島農業振興連



説明を受ける来場者

第3回 おしま農業のお仕事フェア

「道南で農業を仕事にしてみませんか？」
学生、フリーター、会社員、専業主婦など、どなたでも気軽に参加いただけます。道南の各市町が出席しており、「農業のお仕事」について相談できます。

予約不要 入場無料 服装自由 入退場自由

今年は農業だけではなく、林業・漁業のPRコーナーもあります！

フェア会場
日程 2019年8月31日(土曜日)
時間 13:00~16:00
会場 シエスタハコダテ 4階 Gスクエア
住所 函館市本町24-1

交通手段
最寄り駅は「JR函館」駅より、徒歩10分(徒歩10分)
最寄りバス停は「JR函館」駅より、徒歩10分(徒歩10分)
最寄り駐車場は「シエスタハコダテ」から徒歩10分(徒歩10分)

お問い合わせ先
営農支援室 0138-47-9492
函館市 0138-77-8242

絡会議」を昨年度より設立し、各課題毎でプロジェクトを立ち上げ課題解決に取り組んでいます。

そのようななか、8月31日に渡島・檜山管内での新規参入者、酪農ヘルパー、パート人材の募集を目的として、五稜郭公園近くにあるイベントスペース、シエスタハコダテで「おしま農業のお仕事フェア」を開催しました。当日は農業分野への就農・就労に興味のある方々が来場され、担当者からの説明を熱心に受けていました。

●求人サイトを活用した人材確保に向けた取り組み 《中標津支所 営農支援室》

根室管内では人材確保に向けたさまざまな取り組みを行っています。そのなかで根室管内の四つのJAでは、第一次産業の求人に特化したウェブサイト「第一次産業ネット」を活用した人材確保に取り組んでいます。



9月13日には第一次産業ネットを運営している株式会社 Lifelab の野澤氏と井岡氏を招き、JAと中標津支所営農支援室で勉強会を開催。各JAの取り組み方の共有化を行い、それ

それぞれの良いところを今後の参考とすることとしました。また、勉強会では実際に応募数の多い酪農の求人広告事例をもとに「応募が多くなるワケ」をテーマに、ウェブサイト内の効果的な求人広告の作成方法について株式会社 Lifelab よりアドバイスをいただきました。

根室管内では今後もさまざまな形で人材確保に向けた取り組みを続ける予定です。

●JA なんぽろ播種前講習会で秋播き小麦について講習 《営農支援センター》

JA なんぽろでは8月30日に「2020年小麦播種前講習会」が開催され、ホクレン営農支援センターの池口技監が「秋まき小麦の安定生産、今年度の多収要因と学ぶこと」と題し講習を行いました。



池口技監は、きたほなみの品種特性と環境条件に合わせた栽培法に関する考え方について説明。「ある程度の生育量を確保していれば、立ち型の草型にすることが安定生産につながります」と解説しました。

そのほか、普及センターやJAからは今年度の生育状況や小麦なまぐさ黒穂病の調査結果などに関する報告がありました。

●「排水性改善に係わる研修会」を開催 《営農支援推進課》

ホクレン営農支援センターとてん菜生産部は、8月22日にホクレン清水製糖工場集荷区域内の農業技術連絡会議の構成員を対象に、「排水性改善に係わる研修会」を開催しました。天候不順による被害を軽減し安定生産に結び付けるのが狙いです。

研修では、せん孔補助暗渠機「カットドレーン」（土中40～70cmに10cm角ほどの空洞を作る機材）の施工を実演したほか、メーカーである株式会社北海コーキから機材説明や

新機材の紹介を行いました。また、道総研十勝農業試験場による排水性全般の講演も行いました。

来場者からは、「地域で排水性改善を学べる良い機会となった。石がある地域も多いため、対応しそうな新機材についても注目したい」との声が寄せられました。



カットドレーンはホクレンのレンタル機を使用



真剣な表情で講義を聞く受講者

●春播き小麦の新品種候補を収穫 《長沼研究農場 畑作物開発課》

ホクレン長沼研究農場では、春播き小麦の品種開発を行っています。春に手作業で播種した多くの新品種候補たち（ホクレン営農支援情報 2019年6月号参照）を、8月に収穫しました。収穫した小麦は、種別別に脱穀し、収量性や製パン品質などを調査。圃場での生育調査や耐病性調査の結果と合わせて、新品種候補たちを評価します。そのなかで優秀な結果を残したものが来年の試験に進むことができます。

品種開発に関する視察受け入れも行っています。詳しくは畑作物開発課まで。（Tel.0123-88-3331）



●かぼちゃの現地巡回指導 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

園芸作物開発課で開発したかぼちゃ品種の現地での生育状況の調査、および栽培に関する技術指導のため、8月13日にJAようてい管内にて現地巡回を行いました。

当日の調査では、株の生育状況の確認を行いながら収穫適期の目安を生産者にお伝えしました。また、収穫後のキュアリング方法や、貯蔵中の果実腐敗の主要因であるカボチャつる枯れ病の特徴や対策などについて情報をお伝えしました。

当課では、視察受け入れも行っています。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。(Tel.0123-88-1990)



●馬鈴しょにおける GNSS ガイダンスと自動操舵補助装置を使用した実証試験

験 《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場では、9月2日～6日に、馬鈴しょ（とうや）におけるGNSSガイダンスと自動操舵補助装置を使用した実証試験（ガイダンス+自動操舵の使用・不使用での効果確認）の収穫作業を行いました。

その結果、自動操舵を使用することで、トラクターの運転初心者でも作業時間が23%軽減できることが実証されました。詳細な試験結果は現在集約中ですが、今後、2カ年のデータ（1年目は習熟者による試験実施）を集約し、講習会などで情報発信する予定です。



自動操舵使用区（運転者は後方のみを重点的に確認）

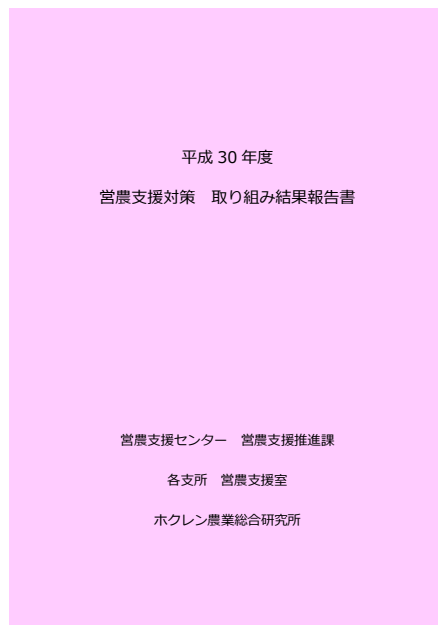


自動操舵不使用区（運転者は進行方向・後方共に確認が必要）

●平成 30 年度 営農支援対策取り組み結果報告書の発刊 《営農支援推進課》

ホクレン営農支援センターおよび営農支援室では、生産現場のさまざまな課題や要望に対して「営農支援対策」を実施しており、JA・各関係機関と連携して「栽培試験」「生産振興」「労働力不足対応」「ICT 活用による省力化」「人材育成に向けた研修会」などに取り組んでいます。

このうち、平成 30 年度に取り組んだ課題のなかから優良事例として 19 課題（下記参照）を冊子にまとめ、関係機関（JA・普及センター、試験場など）へ配付します。内容をご一読いただき、今後の地域課題解決に向けた参考としていただければ幸いです。



報告書の表紙

平成 30 年度 営農支援対策取り組み結果報告書 掲載内容

No. 課題名	実施箇所
1 園芸作物の連作障害回避による収量性向上に向けた取り組み（転炉スラグによる病害軽減）	函館
2 にんじんの収量向上対策	札幌
3 花きハウスにおける生産性向上対策	札幌
4 真空播種機を活用した栽培法の検討（小豆）	帯広
5 JA道東あさひ（西春別支所）における小麦栽培試験	中標津
6 トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立	本所
7 トマト収量向上に向けた取り組み	函館
8 管内豆類のレベル向上への取組	留萌
9 労働力不足解消に向けた人員募集手法の確立	岩見沢
10 農作業労働力確保に向けたJAとの合同広告の実施	旭川
11 農作業労働力確保に向けたJAとの合同イベントの実施	旭川
12 オホーツク酪農における人材確保の取組	北見
13 地域中核エリアにおける農作業パート確保・拡充に向けた募集手法の確立	本所
14 農作業パートの確保・拡充に向けた新たな募集手法の確立	本所
15 「農福連携」に関するJA・ホクレン研修会の開催	本所
16 環境モニタリングシステムの実用性検討	倶知安
17 スマート農業の普及促進に向けた取組	北見
18 営農技術改善に向けた取り組み	稚内
19 営農基盤強化に向けたコントラクターオペレーター研修会の開催	本所

●担い手向け研修会（トマト）を開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に「トマト」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。研修の目的は、①基礎知識の習得、②担い手同士のつながりの強化です。昨年の同研修会には21名の方が参加し、「基本技術の復習・確認や省力化の基本を学べた」などの声がありました。



昨年の研修会の様子

担い手の皆様のご参加をお待ちしています。

【開催日時】 令和元年 11月19日（火）10:30～20日（水）12:20

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北22条東2丁目）

【受講対象】 就農後、概ね5年以内のトマト生産者（親元就農者、新規就農者、Uターン就農者、法人従業員 など）

【研修内容】 トマト栽培の基礎、品種の紹介、生産現場における技術改善の取組み事例、調光フィルム・ういず One、病害虫・防除の基礎、販売情勢 など

【申込方法】 JAを通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ。

●ホクレンフィールドデーへのご来場ありがとうございました 《研究企画課》

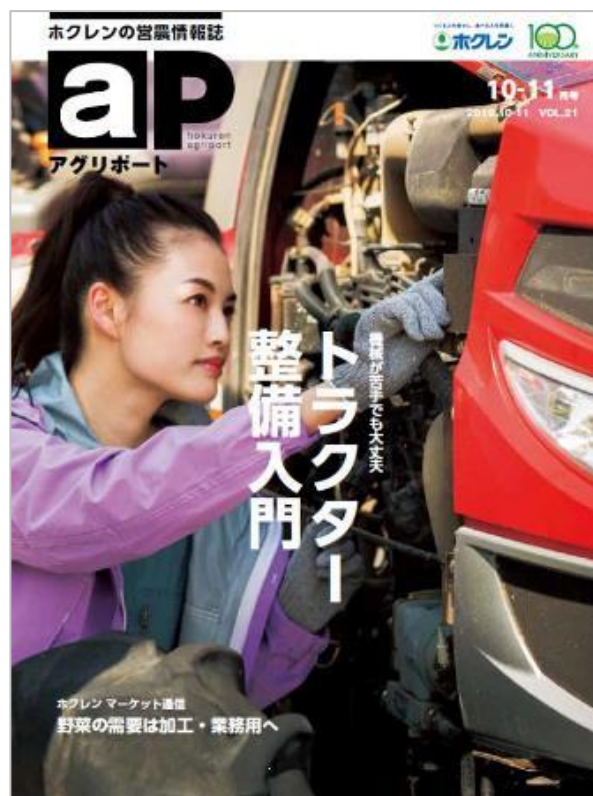
9月6日に長沼研究農場で「ホクレンフィールドデー2019」を開催しました。2年ぶりの実施でしたが、前回は上回る方にご来場いただくことができました。当日の様子はアグリポート 22号（2019年12月号）でお伝えする予定です。



●アグリポート 21 号を発刊 《営農支援推進課》

10月1日にアグリポート21号を発刊しました。特集は「トラクター整備入門」です。

トラクターはほとんどの生産者の方が使っている機械だと思いますが、自分でメンテナンスをしている方はどの程度いらっしゃるでしょうか？トラクターを自分でこまめに整備すれば、機械は長持ちし、整備コストも抑えることができます。今回の特集では、セルフメンテナンスのポイントを誌面と動画で分かりやすく解説。特に機械が苦手な方に読んでいただきたい内容になっています。



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp